

●2019年度通常総会について 決算総会となり次年度の計画の提案がされず

2018年度の活動報告は、前文で会員減少や後継者問題は17年度に引き続き課題としてきたが、具体的な取り組みや成果につなげることが難しかった。非常に大きな課題であることを再認識した。

そしてマラソン大会への協力要請への自主的な協力については、一言の感謝も無い不義理な関係にあることが述べられた。

続いて16項目にわたって、具体的な課題が報告された。組織的な弱さとして、「ボランティア団体」という性格、そして「非営利」という性格、そして「専従者がいない」という課題を持ちながら、県外研修を組織し、コウノトリ復活から多くの教訓を学んだ。

中聖牛3基の設置では京都大学や国交省淀川河川事務所との連携と、里山の会の献身的な力の発揮で完成させ、京都大学の田住君による講演報告もされた。今年は木津川希少種植生調査管理業務や洞穴ルートの完成など多くの成果を実現できた。ヤマトサンショウウオ（カスミサンショウウオ）の生息池での夜間行動動物の撮影と防除対策が実現でき著しい成果を記録した。その成果と思われるが、卵嚢が24対（48個）も発見された。これまでにない雌24匹が生息することになる。

総会では各社員から種々の質問や、取り組みにかかわった経験から詳しい補足もあり、豊かな会議となった。続く会計報告では総収入の約1割の寄付金が報告された。審議の結果報告通り承認された。

●第4号議案の提案の前に事態の説明

理事長退任表明が秋にされ、対応会議を数回実施したが、最終的には現職理事のうち継続表明者は「補佐役としての立場は堅持する」が理事長は固辞するが大半を占め、対応会議では理事長選出には至りませんでした。最後の最後まで話し合ってきたけれど、ここで方針や予算案を提起すると、その執行責任者が不在のままになるので、無責任な決定となるので、差し控え、予算総会の開催まで猶予が必要と説明がされ、混乱もなく、出席者一同了解となった。議長から早期の開催の必要が呼びかけられて、閉会となった。議事が終了後に、太田さんと大釜さんの社員加入が承認され、理事への推薦についても一同の賛成をいただきました。

●木津川希少種植生調査

28日（月）10時から京田辺市域の18カ所の観察調査が5名の出席者で行われました。この地域は木津川堤防では希少種が数多く生育している豊かな環境を持っているところです。約8kmの範囲に絶滅寸前種や絶滅危惧種等が当たり前のように生育しています。これは木津川の堤防が砂でできていて、貧栄養で、大型の植物が生育するには不向きであること、そして長年、家畜の飼料として農家が絶えず草刈りを行ってきたこと、農家の動力としての家畜から機械化による変化があって、堤防の安全点検などのために年間2回の草刈り作業を堤防管理者の淀川河川事務所が実施していることによって、春の芽出し時には太陽の光が等分に与えられて小さな植物もしっかり生育することが出来るからです。そして、大きく高くなってきたところに2回目の草刈りが行われるので、秋の植物も生育できるようです。木津川には里山の会の調査で917種の植物が生育していることが確認されています。現在、里山の会が生育地の保全保護に取り組んでいる場所は39カ所です。そのほか自然のままに手を加えていない場所も数多くあります。

ここでお願いしたいのは、レッドデータブックに記載されている植物の多くは、農薬などを使わない数十年前には田んぼや里山にごく自然に生育していたものです。ところが地球温暖化や農業方法が変化して、化学薬品の使用が増えて、小さい生き物や小さな植物は弱いとされていた生き物が生育場所を失って、現在生育している場所のみ、かろうじて生き延びているのです。厳しい環境の下で頑張っているのです。珍しいものを発見して、引っっこ抜いて持ち帰るなどの行為は、まさに絶滅に手を貸すことになり、ひいては豊かな地域のすばらしさを壊し、元も子もなくなってしまうことになります。できるだけ人間の手で壊すことのないようにお手伝いください。

●木津川で天然記念物のイタセンパラの復活

里山の会は、以前からその啓発や学習会を繰り返し実施してきました。大阪府のワンド地域では稚魚の放流によって、2万匹が確認されたという報道に接します。ここではブラックバスやブルーギルなどの肉食魚類の根絶に地引網などを用いて地域住民の皆さんが取り組みを続けておられます。その成果が目に見えてきました。木津川ではどうでしょうか。淀川水系のうちで、自然のまま、人口の手を加えないで、イタセンパラが生育できていたのが木津川なのです。まだ生育に必要な二枚貝の生育が続いているとも言われています。私たち里山の会は木津川でのイタセンパラの復活を心から願っております。その木津川での最大の課題が、密漁をさせないということです。住民力がまだ不足しているといわれております。植物でも昆虫でも魚でも、今生きているところを大事にする維持するという機運がもう少し上向かないと、なかなか困難といわれています。多くに皆さんにご協力とご理解を頂けるようお願いいたします。

●木津川の景色・絶賛の声を聞く

28日 飯岡の堤防は大きなカーブが緩く回り、普賢寺川までが一望できる約2kmの眺望がすばらしい所です。堤防の斜面が緩く広がり、ゆったりと曲がり、田んぼが一面に大空を支える見事な田園風景です。私は月に2度はここを歩きますという高齢者に出逢った。大住ヶ丘からきているのですというお方でした。この景色をいつまでも残していただきたいとおっしゃっていましたが、数年前まで一面咲き乱れていたカワラナデシコがめっきり少なくなってきました。花のジュータンでした、ツルボの見事なお花畑もありました。木津川堤防で唯一カワラナデシコが可憐に咲き誇っていました。そして、それらを想像して川を渡る風が気持ち良く今も変わらずほほを和ませてくれます。おすすめのポイントです。

15.2 kmあたりから東側の砂洲に巨大な中聖牛の姿も眺められます。一度は訪れてみてください。ことしの秋から冬にかけてもう3基設置する予定です。全部9基となります。木津川の竹を使って、竹蛇籠の製作も計画中です。京都大学と共同の取組です。

●木津川希少種植生調査管理業務地第29番と第30番地でスマレの開花調査を実施

約70mの範囲でスマレが50株見つかりました。以前、この地域で30年前にはオオウラギンヒョウモン(蝶)が24号線の路上で沢山自動車にひかれているという状況が印象に残っているという伊藤福男さんのお話でした。多くのマニアが押し寄せていたらしいです。それが絶滅し、全国では生育地の草原は数か所となり、阿蘇と秋吉台の草原が生息地といわれているようです。この蝶々の食草がスマレだと聞いていました。たまたま木津川堤防でスマレを見かけたので、5月1日雨の中で生育調査を行いました。約70mの長さを10mのブロックに分けて調査してみると10mの範囲で最高で21株が見つかりました、10株が2ヵ所、8株が1ヵ所となり、2つのブロックが0でした。合計50株の開花が確認できました。どの程度の密集度になればいいのか分かりませんが、しっかり見守っていきたいと思います。聞くところによるとオオウラギンヒョウモン蝶にはこれと同じ面積のスマレの群生地が2ヵ所必要だということのようです。かなりの面積のスマレが必要となります。しっかり見守ってゆきましょう。

●レンリソウ保存のための抜草作業

本日2日12時30分から約2時間の作業です。お手伝いにお越しく下さい。お待ちしております。玉水橋東詰めお待ちしております。時間には移動します

●会計業務を永年果たしてこられた深田様が任期満了で職を辞退

昨年10月ごろから前年度会計実務をおさらいされ、新しいNP0会計方式を自習されてこられた白木様と中川さまが記帳実務を引き受けていただくことになり、実務引継ぎを進めていただいております。ご苦労さまですが、よろしく願い申し上げます。会員及び社員のご協力をお願いいたします。